

我が学園70年の 歴史を振り返る…



前 評議員・星城高等学校総務部長 柴田 清 先生



柴田 清 先生

焼け野原の中から…

学園創立70周年おめでとうございます。私はこの石田学園を、お世話になる以前から知っていました。私の世代は戦中の育ちで旧制の中等学校に通っていましたが、戦いは日に日に激しくなり、遂には学ぶどころではなく、学徒動員となりました。

私の動員先は三菱重工業、名古屋製鉄所でした。名古屋も大空襲に何度もあい、生命のあるのが不思議なくらいでした。不幸にも日本は無条件降伏という惨めな結果となり、我に返ってみれば日本中いたるところが焼土となりました。先日起こった東日本大震災の被害の後と同じで一面野原と化してしまいました。

星城高校の前進

そんな状況の中、創立者石田鑣徳先生はこの日本を立ち直らせるのは若者を教育することだと、復興の第一歩として、名古屋英学塾をいち早く立ち上げてみえました。

その頃の私達は戦い終わって学校に復帰。学校も卒業とは名ばかりで、何も学んだ記憶がありませんでした。そんな私達に、塾は大変役立っていたのです。その環境を作られたのが鑣徳先生です。先生は更に一步一步、教育の場を充実され星城高等学校を創立されました。当時、私は公立学校の教師をやっていましたが、縁あって創立3年目の星城高等学校に勤めることになったのです。私は創立者石田鑣徳先生に初めてお会いした時、先生の青少年に対する教育の情熱とその人柄に感動し、この先生のもとで、この星城高等学校で骨を埋めようと心に決めました。時に昭和40年4月1日のことでした。

それから40余年この間に鑣徳先生を先頭に苦楽を共に学校づくりに精進したのです。公立学校では考えられない厳しい壁に立ちはだかれ、そしてようやく光が見えだしたとき不幸にも先生は病に倒れ、帰らぬ人となってしまいました。私は志半ばで生涯を終えられた先生はさぞ残念であったと察します。振り返ってみると、創立当時の星城高等学校は先生も生徒も十分な施設・設備がない中、どこにも負けない高校作り(校風・特色)に全力を尽していました。

がんばれ石田学園

石田学園は鑣徳先生の意思を引き継いだ石田正城先生をはじめ、英城、直城両先生とその周りを支えた先生職員が力を結集され、地元をはじめ広く認められ、少しずつ評価される学校となってまいりました。

私立学校は先生・生徒が自分達で作育てることで良さを発揮するものです。それには何をにおいても生徒の確保が大切です。公立志向の高い愛知県で私立高等学校が生き残ることは容易ではありません。そんな中でこの21世紀は日本の人口は減少の一途。更に公立高等学校授業料無償化と私立学校にとってはかつてない厳しい社会環境に見舞われています。

私は以前、同窓会の会報か何かに「星のように キラリと光る星城高校」と題して投稿したことを思い出し、間近に迫る星城高校50周年を期して、一人一人の教職員が自身を見つめ直し、初心に返って欲しいと思います。そして、また学園傘下のそれぞれの学校、学園もすばらしい周年を迎えたいものです。

石田学園70周年を迎えるにあたり、エールを送り、更なる発展を祈ります。

「星のように キラリと光る石田学園」 ガンバレ日本 ガンバレ石田学園… 合掌